

財務総合政策研究所ASEANワークショップ（2024年11月13日）

プラボウォ新政権の陣容から インドネシアの今後を展望する

川村 晃一

(ジェトロ・アジア経済研究所 在ジャカルタ海外調査員／インドネシア国家研究イノベーション庁BRIN客員研究員)



(写真)議会での就任式を終えて
大統領官邸に向かうプラボウォ
新大統領と迎える沿道の市民。
2024年10月20日、ジャカルタ、
講演者撮影。

※本報告は研究者個人の見解であり、アジア経済研究所の公式見解を示すものではありません。

講演の内容

10月20日に就任したプラボウォ大統領がどのように政権を運営しようとしているのか、内閣の陣容や政権公約、2025年度予算、政権発足後の動きを分析しながら展望します。

1. ジョコ・ウィドド政権の10年ー政治と経済
2. 2024年大統領選を振り返る
3. プラボウォ=ギブラン新政権の誕生
4. 新内閣の概要と閣僚の内訳(出身組織別)から見てくる新内閣の特徴
5. プラボウォ新政権の政治運営、経済運営、外交政策はどうか？
6. プラボウォの政権公約からプラボウォ政権を展望する
7. インドネシアの中長期的な経済社会上的課題
8. 「民主主義の後退期」にあるインドネシア

ジョコ・ウィドド政権の10年

年	大統領	出来事
1998	スハルト ハビビ	アジア金融危機、民主化運動、独裁政権崩壊 民主化改革
1999	ハビビ A. ワヒド	民主的選挙 議会で民主的に大統領選出
2001	メガワティ	憲法改正、政治改革、地方自治、経済民主化 政治的混乱からワヒド大統領罷免
2004	ユドヨノ	議会選+大統領直接選挙導入 民主化の完了
2009	ユドヨノ	ユドヨノ再選、 民主主義の安定 、「民主化のモデル」 世界金融危機を克服、「 新興経済大国 」に
2014	ジョコウィ	議会選・大統領選 社会的分断の深まり、 民主主義の後退
2019	ジョコウィ	ジョコウィ再選 コロナ禍、 グローバルサウス大国

ジョコウィ政権期の経済

■ 安定的なマクロ経済運営

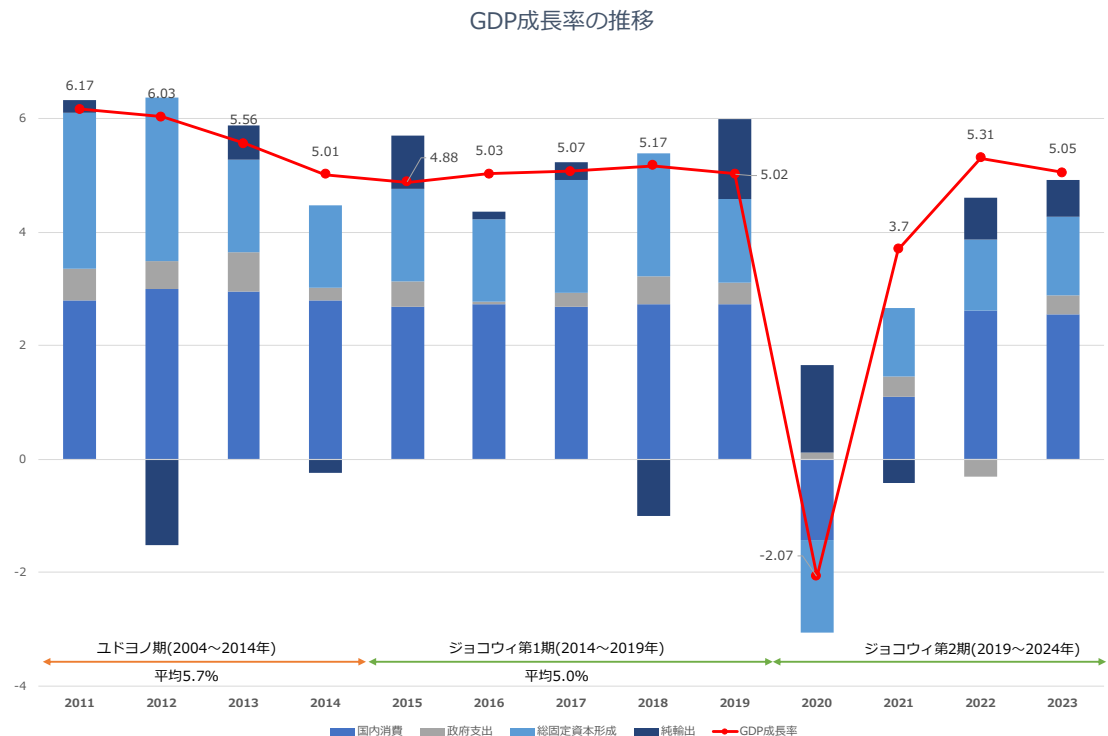
- 経常収支・貿易収支の改善
- 外国投資の呼び込み
- インフレ率の抑制(2~3%)
- 失業率の低下(5.7→4.8%)
- 貧困率の削減(11→9.03%)

■ インフラ開発、首都移転事業

- Cf.国家戦略プロジェクト213のうち80は未完(多くが資金調達と土地の問題)

■ 産業の川下化

- 鉱業の加工産業化(ニッケル、ボーキサイト、銅など)
- 中国からの投資増加(第2の投資国に)
- 卑金属製品の輸出(特に中国向け)増加



(出所)中央統計庁(BPS)資料より講演者作成。

2024年大統領選を振り返る

■ 大統領選挙(2月14日)

- 3組による選挙戦
- 2023年3月まではプラボウォは2～3位候補、10月以降支持率トップに
- 最終的には得票率59%で圧勝

■ なぜプラボウォは圧勝できたのか？

① ジョコウィ効果

- 徹底したジョコウィ路線継承アピール
- ジョコウィが陰に陽に支援

② 若者世代からの支持

- 徹底したイメージ転換戦略
- 「強い指導者」像を捨て「かわいい」イメージを創出
- SNS、AIの駆使、ネット戦略



(写真)国家官房ウェブサイトより。

■ プラボウォ・スビアント

- 1951年生まれ(73歳)、父親は著名経済学者、陸軍戦略予備軍司令官・特殊部隊司令官、グリンドラ党党首
- スハルトの娘婿としてスハルト後の大統領の座を狙う。地方の独立運動や民主化運動弾圧の疑惑あり。2014年・2019年大統領選ではジョコウィに敗北。

■ ギブラン・ラカブミン・ラカ

- 1987年生まれ(37歳)、中ジャワ州出身、ソロ市長、ジョコウィ大統領の長男
- 年齢の立候補要件を満たさなかったが憲法裁(長官がジョコウィの義弟)の決定により土壇場で立候補が可能になった曰く付き。

プラボウォ=ギブラン新政権の誕生

■ 長い政権移行期間

■ 安定した政権運営のための環境作り

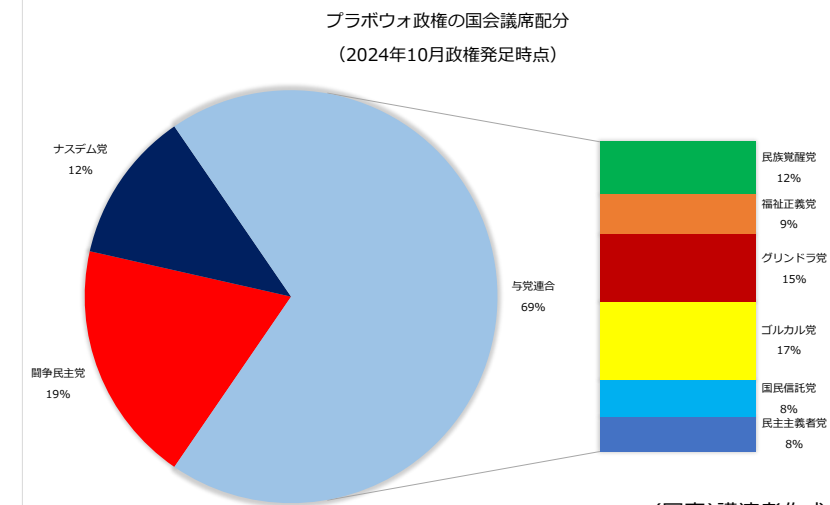
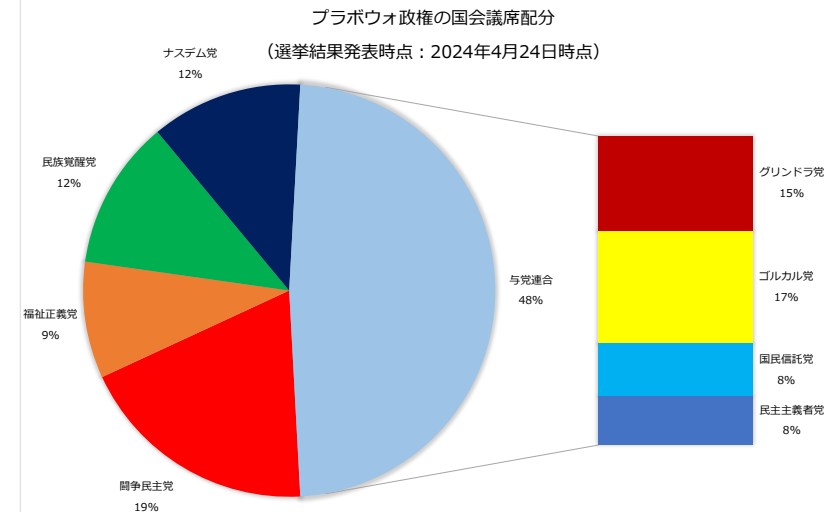
- 4政党の少数連立与党(議席率48%)
- 6政党の巨大連立与党を形成(連立与党12)→国会議席の7割確保
- 法律改正による大統領権限の強化→設置できる省庁・顧問ポストの制限撤廃により大連立与党内での利権配分が可能に

■ ジョコウィとの協力によるスムーズな政権移行

- 政権交代前に閣僚人事で協力
- 2025年度予算策定での協力

■ 正副大統領の就任(10月20日)

■ 「紅白内閣」の発足(10月21日)



(写真)講演者作成。

「紅白内閣」の概要

■ 巨大化した「肥満内閣」

- 省庁の数が大幅に増加：34省→48省
- 大臣級政府高官5人、副大臣56人(大臣・副大臣の一覧は[こちら](#))
- 大統領特別顧問6人、大統領特使7人、大統領特別スタッフ1人、大統領直属政府機関長官6人、副長官6人、内閣官房長官(顧問の一覧は[こちら](#))
- 政権発足後の政治任用は136人に



■ 新設省庁：1調整相府、2省、5庁

食料担当調整相府、人口・家族開発省、インドネシア海外労働者保護省、開発監督・特別捜査庁、ダヤ・アナガタ・ヌサンタラ投資管理庁、巡礼実行庁、貧困脱出加速化庁

■ 省庁分割：2調整相府、7省

政治・法務・治安担当調整相府→政治・治安担当調整相府、法務・人権・入国管理・刑事施設担当調整相府、人間開発・文化担当調整相府→人間開発・文化担当調整相、社会エンパワーメント担当調整相府、法務人権省→法務省、人権省、入国管理・刑事施設省、観光・創造経済省→観光省、創造経済省、教育・文化・研究技術省→初等・中等教育省、高等教育・科学技術省、文化省、公共事業・国民住宅省→公共事業省、住宅・居住地域省、村落・後進地域開発・移住省→村落・後進地域開発省、移住省、協同組合・中小企業→協同組合省、中小零細企業省、環境・林業省→環境省、林業省

■ 名称変更：1調整相府、2省

海洋・投資担当調整相府→インフラ・地域開発担当調整相府、通信情報省→通信デジタル省、投資省→投資・川下化省

閣僚の内訳

出身組織	大臣	副大臣	その他
グリンドラ党	6	9	5
ゴルカル党	9	3	2
民族覚醒党	3	1	0
福祉正義党	1	0	0
民主主義者党	4	1	0
国民信託党	2	2	1
連帯党	1	2	0
月星党	1	0	1
グロラ党	0	2	0
その他	0	3	2
合計	27	23	11

出身組織	大臣	副大臣	その他
国軍	3	3	3
警察	3	2	0
民間(実業家・経済界)	7	3	1
民間(宗教界)	3	6	2
民間(学界)	4	6	4
民間(その他)	2	6	4
官僚	4	7	2
合計	26	33	16

- 国軍出身者はプラボウォと関係深い
- 民間出身者もプラボウォと関係のある人物多数
- プラボウォ=ギブラン/サンディ選対メンバーの多さ→論功行賞人事
- 純粋な“専門家”は多く見積もって大臣8人、副大臣20人、その他9人

(出所)各種報道・資料より講演者作成。

プラボウォ政権は強権的になるか？

■ 目立つ国軍出身者

■ 純粋な軍出身者8人

国防相、国家情報庁長官、大統領首席補佐官、国家官房副長官、国防副大臣、海洋・漁業副大臣、政治・治安担当大統領特別顧問、国防担当大統領特別顧問/防衛産業政策委員会委員長、内閣官房長

■ 隠れ軍出身者(政治家などに転身)9人

外相、インフラ・地域開発担当調整相、移住相、農地・空間計画相、政治・治安担当調整副大臣、国家経済評議会議長/行政デジタル化・技術担当大統領特別顧問、開発監督・特別捜査庁長官、国家栄養庁副長官

■ 軍隊式の政権統率

- 政権発足前後の合同研修・合宿をプラボウォ私邸&国軍士官学校で実施→閣内の規律、忠誠心、結束力を強調

■ 政権発足前の政治工作

- 総与党化の試み、大統領権限強化に向けた法改正

■ 過去の抹消

- スハルト時代末期の民主化活動家、1998年民主化運動での活動家誘拐事件の被害者ら7人を登用
- ユスリル調整相の発言「1998年5月暴動は解決済み」
- 就任演説では「人権」に一言も触れず
- “インドネシア特有の民主主義、礼儀正しい民主主義”に言及



(写真)大統領広報官室ウェブサイトより。Presidential Communication Office of Indonesia, CC BY-SA 4.0 <<https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/>>, via Wikimedia Commons

プラボウォ政権にジョコウィの影響力は残るか？

■ 主要閣僚の多くが留任：13人

財務相、内相、法相、経済担当調整相、工業相、エネルギー・鉱物資源相、国営企業相、投資・川下化相、保健相、青年・スポーツ相、社会相、農業相、海洋・漁業相

■ 別ポストで再任：5人

人間開発・文化担当調整相(←国家官房長官)、インフラ・地域開発担当調整相(←農地・空間計画相)、協同組合相(←通信・情報相)、食料担当調整相(←商業相)、国家経済評議会議長(←海洋・投資担当調整相)

■ 副大臣の留任・再任：9人

財務副大臣x2、通信デジタル副大臣x2、法務副大臣、国営企業副大臣、エネルギー・鉱物資源副大臣(←投資副大臣)、保健副大臣、農業副大臣

■ 留任した閣僚≠ジョコウィ派

■ 政党党首/幹部として留任：4人

経済担当調整相、工業相、インフラ・地域開発担当調整相、食料担当調整相

■ 留任を見込んで政権末期に任命：7人

法相、投資・川下化相、社会相、財務副大臣、通信デジタル副大臣、エネルギー・鉱物資源副大臣、農業副大臣

■ 行政手腕を評価：3人

財務相、国営企業相、保健相

■ ジョコウィの推薦人事：8人

内相、エネルギー・鉱物資源相、人間開発・文化担当調整相、協同組合相、インドネシア海外労働者保護相、林業相、国営企業副大臣(ギブラン推薦)、労働力副大臣

■ 政府の重要閣僚からは外れている

■ ジョコウィは何を権力基盤とするか？

■ ギブランの役割は？

プラボウォ政権の経済運営はどうか？

■ 注目された財務相人事

- 安定的なマクロ経済運営の要、スハルト時代以来テクノクラートのポスト
- プラボウォの甥トーマス・ジワンドノ財務副大臣、ブディ・グナディ・サディキン保健相などが候補にあがる
- 結果は、**スリ・ムルヤニ**の留任
- 大統領経験者(ユドヨノ、ジョコウィ)のアドバイス？市場、国際機関との関係を考える？
- 財務省から税務総局・関税総局を分離し「**国家歳入庁**」を設立する構想も見送りに

■ 財務省が大統領直轄に

- 経済担当調整相府の管轄から大統領直轄に
- 財政の素早い対応、効率的な運営が可能？
- 財政政策の政治的独立性が失われる？
- ジョコウィ政権下では国防予算の配分をめぐってスリ財務相とプラボウォ国防相が対立→今後は上下関係に
- Cf. **国家開発企画省**も大統領直轄に(大臣はアグリビジネス専門の学者だが、プラボウォに近い)

■ 副財務相3人体制に

- トーマス・ジワンドノ副大臣(プラボウォの甥、グリンドラ党財務部長)
- スアハシル・ナザラ(経済学者)
- アンギト・アビマニュ(経済学者)→歳入部門担当？

プラボウォ政権の外交政策はどうか？

■ 注目された外相人事

- スハルト政権(1966年)以降外交官が就任してきたポスト
- 近年で非外交官出身外相はアルウィ・シハブ(1999～2001年、アブドゥルラフマン・ワヒド大統領時代)のみ
- 23年ぶりに政党政治家の**スギオノ外相**
- (経歴)米国ノーウィッチ大卒、独コンスタンツ大学院修了、陸軍特殊部隊隊員、国会議員、プラボウォ私設秘書、グリンドラ党副党首代行、大統領就任前のプラボウォ外遊にほぼ同行

■ 政権交代の外交政策へのインパクト

- 10月22～24日、露でのBRICS首脳会議に就任直後のスギオノ外相が出席
- 最終日に**BRICS加盟の意向**を表明
- 2023年首脳会議ではジョコウィ大統領が出席したが、メリットが見いだせないとして加盟は見送り

■ 外交に積極的なプラボウォ大統領

- 大統領就任前に国防相として20カ国を訪問
- 就任演説「自由・積極外交、非同盟の道を選ぶ。いずれの国との軍事同盟にも加わらない。すべての国との友好関係を築く」「**友人千人でも少なすぎる、敵はひとりでも多すぎる**」
- BRICS加盟表明でも「インドネシアの重要な役割は**途上国と先進国の架け橋**となること」
- 伝統の「**自由・積極外交**」、**全方位中立外交**を堅持する
- 経済中心のジョコウィ外交から安全保障も重視する外交へ

■ 政治家外相を補う人事

- **3人の外務副大臣**：政治家1人(アニス・マッタ・グロラ党党首→イスラーム外交を担当?)と外交官2人(欧州駐在・国際機関・国際法→アジア外交が弱い?)
- **国家開発企画副大臣**：外交官(国際機関・多国間協力)
- **国際貿易・多国間協力担当大統領特使**：学者

プラボウオの政権公約（1）

■ 8ミッション(8つの希望 Asta Cita)

- ① パンチャシラ・イデオロギー、民主主義、人権の強化
- ② 国防システムの強化と食糧・エネルギー・水の自給、創造経済、グリーン経済、ブルー経済を通じた国民の自立性強化
- ③ 質の高い労働市場の強化、企業活動の促進、創造産業の育成、インフラ開発の継続
- ④ 人的資源開発、科学技術、教育、保健、スポーツ、ジェンダー平等の強化、女性・若者・障害者の役割の強化
- ⑤ 国内の付加価値向上のため川下化と産業化の継続
- ⑥ 経済的均衡と貧困撲滅のため村落の開発および村落からの開発
- ⑦ 政治・法・官僚改革の強化と汚職・麻薬予防と撲滅の強化
- ⑧ 自然環境と文化の調和のある生活の強化、公正で繁栄の社会を実現するため宗教信者間の寛容性の強化

**PRABOWO
GIBRAN 2024**
BERSAMA INDONESIA MAJU



(出所)プラボウオ＝ギブラン選挙公約より。

プラボウオの政権公約（2）

■ 優先17プログラム

- ①食糧・エネルギー自給
- ②国家歳入制度の確立
- ③政治・法・官僚改革
- ④汚職予防・撲滅
- ⑤貧困撲滅
- ⑥麻薬予防・撲滅
- ⑦医療サービス・薬品の供給
- ⑧科学技術教育の強化・デジタル化
- ⑨国防体制の強化・国際関係の回復
- ⑩ジェンダー平等・女性/子供/障がい者の権利保護
- ⑪環境保護
- ⑫肥料・種子の供給
- ⑬安価な住宅と衛生環境の提供
- ⑭経済的格差解消・中小企業の強化・新首都開発
- ⑮産業の川下化・資源産業の開発と雇用創出
- ⑯宗教間の調和
- ⑰文化芸術の振興・創造経済とスポーツの発展

■ 最優先8プログラム

- ① 学校給食の無償化、妊婦・乳幼児への食料支援
- ② 健康診断の無償化
- ③ Food estateの開発による食料自給
- ④ 先進教育学校の設置、教育施設の修復
- ⑤ 社会福祉カードプログラムの拡充
- ⑥ 公務員・警官・兵士の給与引き上げ
- ⑦ 村落インフラ、現金直接給付、住宅供給
- ⑧ 国家歳入庁の設置と納税率の向上

プラボウオ政権の展望

■ モノからヒトへの投資へ

- **ジョコウィ政権の継承**：産業の川下化、インフラ開発、デジタル化、気候変動対策
- しかし、インフラ開発予算は5.5%減
 - 首都移転予算は65%減(15兆ルピア)
- 優先政策の大半は**社会政策・再分配政策**
 - 無料栄養食プログラム(71兆ルピア)
 - 無料健康診断プログラム(3.2兆ルピア)
 - 学校施設のリノベーション(20兆ルピア)
 - 年間300万戸住宅建設など

■ 広義の安全保障政策の重視

- 兵器の近代化と国防力強化→国防・治安予算12.2%増(372.3兆ルピア)
- 食料安全保障関連21.9%増(139.4兆ルピア)→フード・エステート開発(15兆ルピア)
- エネルギー安全保障

■ 課題

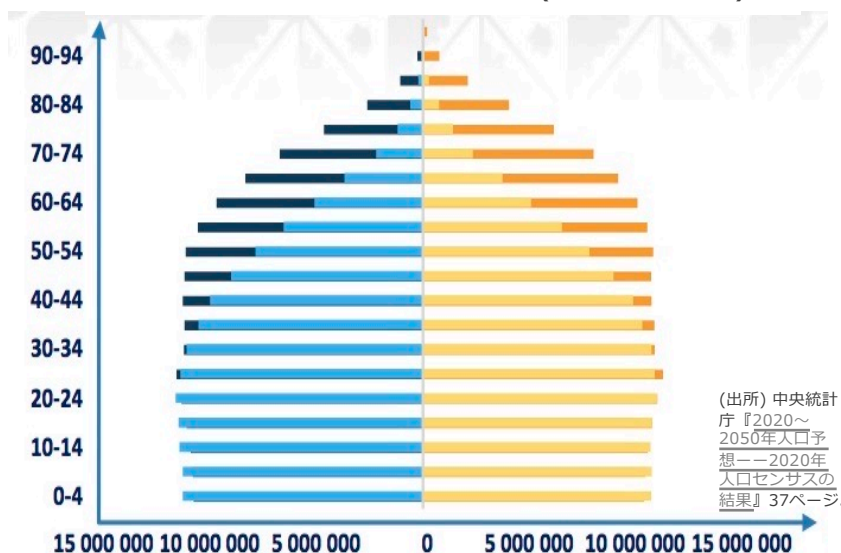
- 巨額の財政支出を伴う公約→2025年度予算の歳出規模は前年度比8.9%増
- ジョコウィの負の遺産：巨額の政府債務の償還期限→2025～2027年に年間800兆ルピア超
- Cf. 政府債務残高GDP比率は国家財政法で60%未満、財政赤字GDP比率は3%未満
- “税収の対GDP比23%達成”の目標(現在は約10%)と国家歳入庁設置の公約
- 社会政策・再配分政策、食料自給政策は利権政治の温床
- インフラ建設、産業開発・川下化だけでなく、社会政策でも海外投資を期待？

中長期的な経済社会上的課題

■ 「2045黄金のインドネシア」の夢

- 建国100年の**2045年に先進国入り**の目標
 - 2045年に5大経済大国へ (Cf. ゴールドマン・サックス予測では2050年に4大経済大国)
- 人口ボーナス期：2030年には70.6%に
→2040年前後まで続く
- 人口の平均年齢30歳、若者が中心の時代

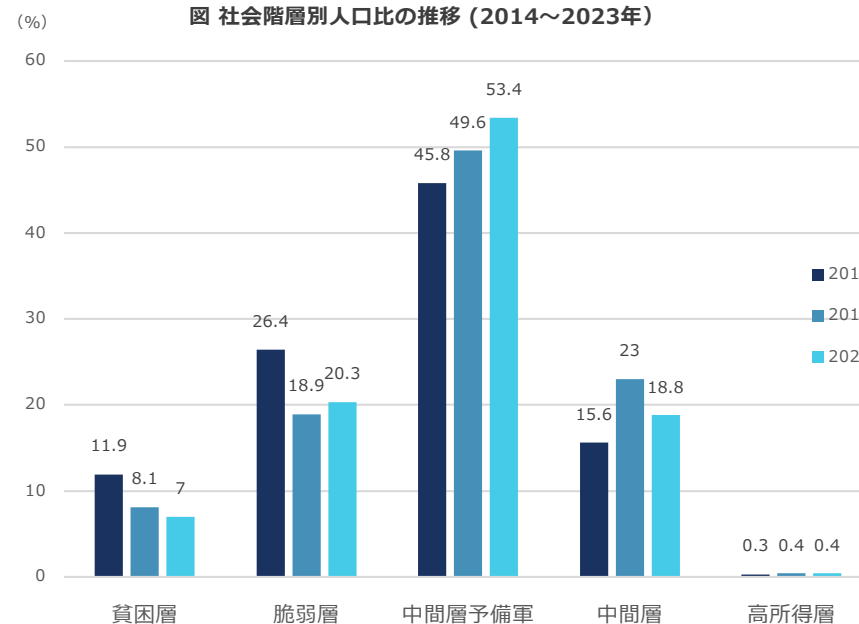
図 現在のトレンドが続いた場合の人口予測 (2020年と2050年)



■ 課題

- 所得格差、脆弱な中間層
- 高齢化社会の準備(人口増加率、生産年齢人口増加率の減少は始まっている)
- ガバナンスの改善

図 社会階層別人口比の推移 (2014～2023年)



(出所) LPME FEB UI, *Indonesia Economic Outlook Triwulan-III 2024*, p. 4.

「民主主義の後退」期にあるインドネシア

■ ジョコウィ政権下で民主主義が「後退」

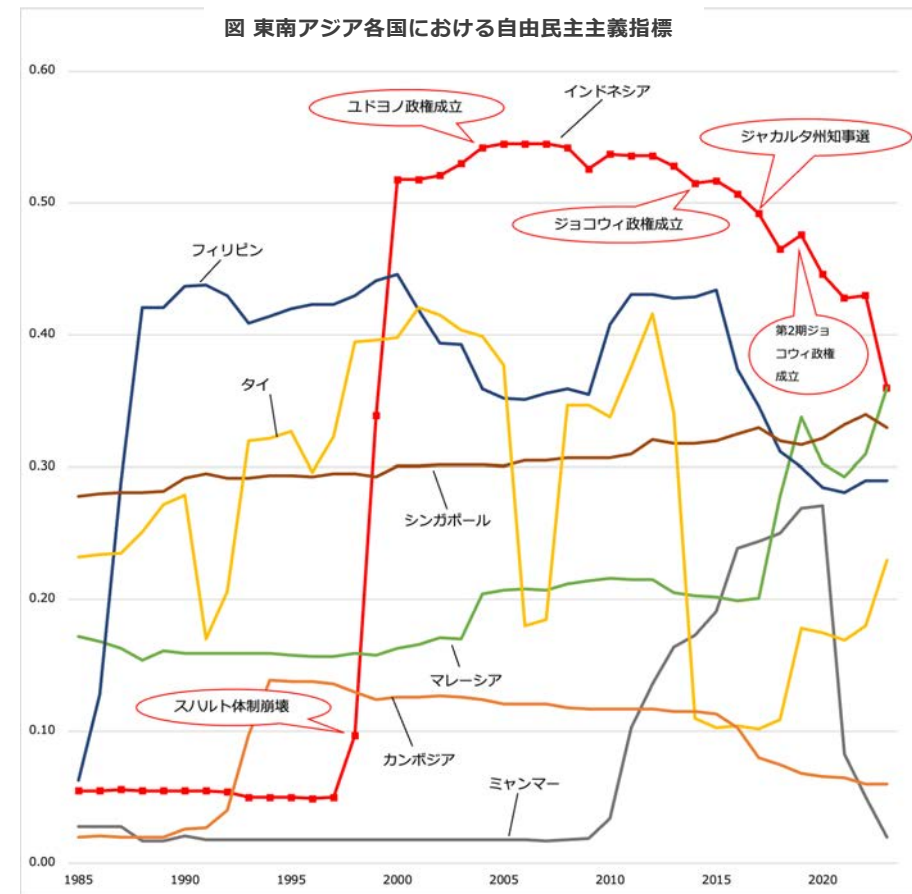
- 人権規範の低下、権力分立の弱体

■ プラボウォ式政治運営のかたち

- 軍隊式、トップダウン型、集権的な政治運営
- ジョコウィが“中小企業社長”タイプだったとすれば、プラボウォは“軍司令官”タイプか
- 規律のとれた一体的な政府による高い実行力が実現できる？
- 批判、意見の相違に対する寛容性が低下
- 密室政治・談合政治→予測可能性の低下

■ 国民の高い期待のなかの船出

- 好印象：プラボウォ84.1%、ギブラン71.1% (*Kompas*, 19 Oct. 2024)
- 期待：85.3% (*Indikator*, 27 Oct 2024)



(出所) V-Dem data ver.12 (<https://www.v-dem.net/>)から講演者作成

参考文献

- 川村晃一編『新興民主主義大国インドネシア——ユドヨノ政権の10年とジョコウィ大統領の誕生——』アジア経済研究所、2015年
- 川村晃一編『2019年インドネシアの選挙——深まる社会の分断とジョコウィの再選——』アジア経済研究所、2020年
- 川村晃一「なぜプラボウォは圧勝できたのか？——2024年大統領選挙を開票速報から分析する」『IDEスクエア』2024年3月
- 川村晃一「『経済教室』大統領選後のインドネシア 経済開発・民主政治 両立カギ」『日本経済新聞』2024年3月5日
- 川村晃一「ジョコ・インドネシア大統領が狙う「一族支配」、布石は着々でも存在する高いハードル」『Foresight(フォーサイト)』2024年4月3日
- 川村晃一「BRICSには加盟せず、OECDへの加盟を目指すインドネシア外交のしたたかさ——「自主・積極外交」のレガシー」『IDEスクエア』2024年5月7日
- 川村晃一「プラボウォ新政権の下でインドネシアの民主主義はどうなるのか？——政権移行期の法案改正の動きと「民主主義の後退」」『IDEスクエア』2024年9月
- 川村晃一「連載ジョコウィからプラボウォへ：政権移行期のインドネシア第1回 新政権発足前の動きから見えてくるプラボウォ政治の姿」『月刊インドネシア』2024年10月号
- 川村晃一「連載ジョコウィからプラボウォへ：政権移行期のインドネシア第2回 2025年度国家予算からプラボウォ新政権の政策の方向性を考える」『月刊インドネシア』2024年11月号
- アジア経済研究所ウェブサイト特集ページ「2024年インドネシアの選挙」